# 看護あきた

Vol. **98** 平成21年度 3号

Nursing Akita

#### わたしのまちの看護師さん「こまち」紹介 [シリーズ 認定看護師]



表紙/わたしのまちの看護師さん [シリーズ認定看護師] 「こまち」紹介 五十嵐 孝さん 仙北組合総合病院 [P2]



# 目次Contents



1 認定看護師連絡会議・研修会報告

2

わたしのまちの看護師さん [シリーズ認定看護師]

# 「こまち」紹介

- 4 秋田県看護学会報告
- 6 個人会員研修·交流会 報告
- 7 シリーズ公益社団法人化に向けて





- 8 各地区活動紹介 (大館/大仙・仙北/由利本荘・にかほ)
- 10 環境・保健事業功労者表彰式

シリーズおらほの施設自慢

11 Vol.27 本荘第一病院



- 12 シリーズ在宅看護 -3能代山本訪問看護ステーション
- 13 会員から協会へなんでもメッセージ

10 de de la constante de la co

講演

認定看護師の役割とネットワークの構築看護学の研究者として、皮膚排泄ケア認定看護師として

講師

東京大学大学院 医学系研究科健康科学·看護学専攻 真田 弘美 教授

県内認定看護師27人が参加し、 講演、グループワークと熱気あふれる1日だった。

研修目的

県内の看護の質向上に貢献している認定看護師の今後の活動を支援するため、 県内の認定看護師が一堂に会し、状況把を握や情報交換・相互連携の推進を図る。

講演内容

講師自身が皮膚排泄ケア認定看護師を目指した動機や時代背景、褥瘡を治癒させることの意味や、日本褥瘡学会学術委員会の立ち上げの経緯などについて話された。また、褥瘡に関わる全ての職種が共通言語で創部を語ることで、他職種との連携が図れる。日本の医療に貢献する専門性の高い看護職とは「医療全体の中で看護を観る一共通言語」「研究を実践に使える一EBN」「研究に参加する環境を持つ一調整力」であると話された。真田講師からは、次は事例検討を進めるように助言があった。



#### グループワーク結果

- ●認定看護師としての役割がよく理解できた。
- ●院内での役割や位置づけを明確にする必要がある。 そのために、看護管理者に理解してもらうよう 看護協会の支援を希望する。
- ●認定看護師として意識すること
  - ●他職種の役割を尊重し、認定看護師としてその中に踏み入って意見を否定したりしない。
  - ●実績を数量化していくことで、周囲から評価が得られるようにする。
  - ●患者が主体であり、他職種を調整していくような言葉遣いを心掛ける。
  - ●組織が求めること、自分が求めることを明確にし、組織人としての立場で 行動する。
- ●他の認定看護師と交流が持てて、活動内容を知ることができ、ネットワークが広がった。
- ●認定各分野の知識・技術を県内などで共有する必要がある。

#### 本日の企画に対して

参加者全員から、来年度以降も認定看護師間の交流の場を希望するとあった。

感想

受講生にとっては、全てにおいて師であり憧れである真田講師からの講演、 そして、グループワーク後にコメントをもらえたことが、何よりの活力に なったようである。



#### わたしのまちの看護師さん

#### シリーズ 認定看護師

# 「こまち」紹介

あなたのまちで、いきいきと輝く笑顔で働く看護師さんに焦点を当てて、

いま、イチ押しの看護師さんを紹介するコーナーです。

毎回、看護の専門性をたゆみなく探求し続ける

認定看護師さんを紹介します。

## 五十嵐 孝 さん

#### 2 \$ 5 File No.03

仙北組合総合病院 医療安全対策室 認定看護師分類/感染管理



#### なぜ認定看護師を目指そうとしましたか?

平成18年に医療安全対策室配属となり、専任で感染 対策を担当することになりました。自分の知識も不 足していましたし、職員への感染予防技術の教育や 医療関連感染サーベイランスをする際に、基礎から の理解が必要だと強く感じ、認定看護師を目指しま した。

#### 取得するまでに一番辛かったことは?

カリキュラムがとてもハードで、睡眠時間が足りま せんでした。学科や試験、グループワークなどが次々 に組まれていて、短い研修期間中に覚えなければい けないことも多くて大変だったのですが、一生のう ちに何度もあることではないので、とても貴重な経 験でした。

あと、今勤めている厚生連病院では、私が研修に行っ た年から認定看護師研修支援制度ができたのです が、研修期間中は給料が出なかったので、実は一番辛 かったのは経済面でした。



#### 取得して良かったと思うことは?

資格を取得する前は、感染管理プログラムというものがよくわからず、ただがむしゃらに「感染対策をすればいい」と思っていました。けれども、資格取得後は、自分の病院の実状に合ったプログラムを考えられるようになりましたし、感染対策を進めていく上で、資格を持っている立場で実践や指導をスムーズに行っていけるようになった点が良かったと思います。

#### この資格をとって、次にやりたいことは何ですか。 また、この資格をどう活かしたいですか?

まず、自分の病院の感染対策を今以上にしっかりやりたいです。いくつかのサーベイランスを始めましたが、他にも取り組むべき課題は多く、感染対策の奥深さを実感しています。また、感染対策での教育の大切さや、院内だけでなく地域ぐるみで取り組むべき問題だということを考えると、病院外の施設での教育活動にも力を入れたいと思っています。

#### 資格をとろうかと悩んでいるナースに一言。

どれだけその資格を取得したいかという思いと、取得した後にそれをどう仕事に活かしていくかを見据えていれば、家庭のことや経済面などの不安はあったとしても、必ず道は開けていくはずです。研修では、同じ志をもつ仲間との新しい出会いもありますし、自分の世界を広げるためにも、ぜひ資格の取得を目指してください。







# 第36回 秋田県

# 看護学会

報告

メインテーマ

#### 看護職の可能性

日 時 | 平成21年11月14日(土)

9:00~16:00

場 所 秋田県総合保健センター

出席者数 230名

日 程 | 午前/一般演題発表

(口演7題、示説2題)、 職能委員会より示説発表2題

午後/海外派遣研修報告、特別講演



活発な質疑応答



示説発表にて マヨネーズの容器で冷罨法!



#### 会長挨拶

看護職は大きな変化の中にある。ひとつは秋田県看護協会が 公益社団法人化をめざし、県民の健康と福祉の向上に寄与す べく組織の改革をすすめていること、もうひとつは保助看法 改正、看護師等の人材確保の促進に関する法律改正をうけて、 一層の看護の質の向上を目指し、国の予算で卒後研修の充実 をすすめていこうとしていることである。県看護協会として も来年度にむけて、看護研究の支援一計画書作成からまとめ まで一の体制づくりをすすめている。



#### 内容

#### 演題発表

一般演題では、それぞれが療養・治療過程の満足感や幸せ感、生活の質の向上へふみこんだ内容で研究しており、対象もいろいろな過程の入院患者・在宅患者・ケアする家族と幅広く、あらゆる場面への看護のニーズと求められる質の高さに対応されているものだった。研究によって看護技術・理論に裏付けられた看護過程や調査結果は、今まさに我々が求めている情報だった。

今回の特別企画である、看護師職能委員会から「秋田県看護職員人員確保状況実態調査報告」、助産師職能委員会から「周産期医療施設集約化に伴う助産師の業務変化と働きがい」の示説発表では看護職を取り巻く現状が明確化されており、今後の課題の提言とあわせて示されていた。

講演発表では予定時間いつぱいの活発な質疑応答、意見発表があり、示説会場でも多くの意見交換がされて、参加者は意欲的に研究内容を共有していた。

#### 海外派遣研修報告

#### 「メイヨークリニック研修からの学び」

先進医療実践施設であるメイヨークリニックへの派遣が昨年で終了となり、最後の研修者である高橋典子さん、渡邉香さんより報告。

メイヨークリニックは実践・研究・教育を3本柱とし、患者最優先の看護を目指している。そこでの設備・技術・精神を学ぶ全体研修が2日間、各専門研修3日間おこなわれた。高橋さんからは、循環器内科や集中治療室での、業務自体は日本の看護師とかわらないがチームワークがよく、看護に専念できる体制のなかで看護師が誇りをもって働く現場と、スタッフ教育(充実したプログラムから選択して就業時間内にうけられる)の様子が報告された。助産師である渡邉さんからは、助産師の働く現場の様子を上級実践看護師の扱いである助産師の権限や業務範囲のちがいに日本の医療の公平さやベットサイドに寄り添う看護のよさの再発見を加えて報告された。

#### 特別講演

#### 「めざせ看護維新 |

看護職の危機は社会保障の危機であり、今こそ「維新」の時であると確信したたかがい恵美子さん。今が、声をあげて看護職をとりまく環境をかえていく時であり、看護職こそがよりよい社会のしくみや制度を提案していくべきであることを話された。

いま看護職をとりまく現場がたいへんな状況になっている。疲弊し、これ以上がんばれない、後輩たちにがんばってとはいえない状態である。日本の看護の技術力は世界一と思っているが、それに見合う評価がついてない、もっている技術も存分に発揮できていない。そして現在の社会保障も、例えば就業時間前30分、就業時間後1時間の無償の労働や個人の時間を使っての研鑽など、看護職のもちだしで成り立っている。働く世代が減り、3人に1人が65才以上になっている20年後、そのとき看護はどうなっているか。

医療の体制、社会保障の配分やしくみを変えていかなければいけないが、本当に必要なサービスと効果をあげられるタイミングを知っているのは看護職である。年間推定170万人がなくなる20年後にむけて、どういう最後のときを過ごし、亡くなりたいのかを知っているのは看護職である。看護職からよい制度を提案していくときである。

日本では133万人の看護職が働いて世界一の医療を実現している。 将来にむけて看護職、介護職数は年間2万人ずつの増員を要するが、 増やすことができたのは、年間1万3千人。増やせなければ1人1人 の負担が増える。柔軟な働きかたや、経験、技術を生かせる制度を実現 化していく時である。

看護は人が生まれてから死ぬまでの間、関わりを持ち生きる力を支える仕事である。1人1人が声をだし、苦しいことを言葉にして理解を求めるときである。なぜなら看護は次の社会にとってなくてはならないものだから。「看護は太陽」ということを明言しつつ、社会もそう言ってくれることを一緒に目指しましょう。

「暖かいメッセージをいただいた1時間であった。」





#### 全体を通して

看護職が立っている場所を示してくれた会長 挨拶にはじまり、演題発表では、生きていく過程での幸への看護職の大きな関与を実感させられる一方で現状も認識させられ、メイヨークリニックでの研修報告からは未来を思い描くヒントをもらった。特別講演は看護職として今なすべきことが行動につながることばで明確に提言され、山積する業務にふりまわされるだけの日常から、ふと視点を変えて、まさに「看護職の可能性」を考えた1日となった。 <来年度にむけて~実行委員より>

申し込みのあった演題は、すべて採用の方向で指導を行っています。来年度も沢山の申し込みをお待ちしています。なお現在検討をすすめている看護研究の支援体制を期待して下さい。

(記事;佐々木元子)

# 個人会員

# 研修• 交流会

## 報告



目的●看護協会の個人会員が、看護職としてこれまで培ってきた知識と技術を活かし、 地域社会で活躍できるようにするとともに、 個人会員の協会事業への参加を促進し協会組織の強化を図る。

日時 平成21年8月31日(月)研修会13:00~16:00 交流会16:30~18:30

場所●秋田県看護センター第一研修室 出席者:25名 ニューたけや(交流会) 出席者:14名

内容●1.会長挨拶及び協会事業についての情報提供

2. 講演テーマ「いのちの電話昨今の状況」 講師 秋田いのちの電話事務局長 阿部恒夫氏

3. リフレッシュ講座 「美しさのふしぎ」 講師 秋田看護福祉大学教授 池田信子氏

4. 交流会 会食しながら交流(3000円会費)



まとめ ● この研修会は県内の個人会員を対象にした新たな企画で 参加者は25名であった。

「いのちの電話」の講演は、社会情勢に応じた相談内容の変化などの事例の紹介に「実情が理解できた」「相談員としての聞き手の心得など大変役に立った」と高い関心を示していた。相談員としてすでに活動している個人会員も参加されていた。

リフレッシュ講座「美しさの不思議」では、スキンケアの 方法を実際に体験するなど、笑いのある講義で心身とも にリフレッシュできた様子が伺えた。今回の研修内容に 対しては受講者の8割がよかったとこたえており好評 だった。

さらに、アンケートからは、秋田県看護協会の活動・現在の 看護に関しての情報を提供していただき大変よかった。今 後もこの研修を継続して欲しいという要望があった。

公益社団法人 社団法人秋田県看護協会は、平成24年度から、 化に向けてvol.2 新たな「公益社団法人」として活動していきたいと考えています。 ここでは、「公益社団法人」について、会員の皆様に わかりやすくお伝えしたいと思います。

#### Q1 移行手続きはどのように進めるのですか。



21年度通常総会において、「法人改革準備特別委員会」の事業計画が承認されましたが、21年4月以降 4回開催し、協議を進めてきております。

委員会の答申を踏まえ、次の日程で、公益社団法人への移行手続きを進めたいと考えております。

- ①22年度通常総会で、次の事項について骨子(案)の承認を得ます。
  - ・定款 ・総会や理事会の運営方法 ・理事や監事の選任方法 ・地区支部の位置付け
  - ・公益目的事業会計及び収益事業等会計、法人会計の3つに区分した予算等
- ②23年度通常総会において22年度通常総会で承認を得た事項等について、成案を提案し、承認を得ます。
- ③23年9月移行認定申請書を秋田県に提出します。

#### 現在の日本看護協会 綱領·定款

#### 新たな基本理念案

#### 事業領域

- ●職業倫理の向上
- ●看護に関する専門教育及び 学術の研究
- 保健師、助産師、看護師、准看護師 の福祉の充実(勤務条件の改善向上)
- - 看護の質の向上 ●看護職が働き続けられる
  - 環境づくり ●看護領域の開発・展開

#### 目的

●国民の健康と福祉の向上



人々の健康な生活の実現

#### 日本看護協会基本理念(案)

#### 使命を達成するための3つの事業領域

#### 看護の質の向上

- ●看護基礎教育 ●臨床研修 ●継続教育 ●学術研究

- ●看護専門制度●医療安全対策

#### 看護職が働き続けられる環境づくり

- 働き方の多様化●雇用条件の整備●ナースセンター の活用支援 ●看護職の権利擁護 ●福利厚生の充実
- ●医療安全に対する相談と支援

#### 看護領域の開発・展開

- ●三職能の業務上の役割機能の拡充・拡大
- 看護職による事業経営

#### Q2 公益社団法人への移行について、どんな課題がありますか。



第Ⅰに、秋田県看護協会がどのような目的をもって活動していく団体かという基本理念を定めることが 重要であります。

そのため、現在の協会の目的は、「保健師、助産師、看護師及び准看護師の職業倫理及び資質の向上並びに 保健、助産及び看護に関する研究に勤め、もって県民の健康及び福祉の向上に寄与する。」とありますが、 これを見直し、「不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与する」を基本に据えて、公益社団法人としての 活動指針となる基本理念を策定する必要があります。

日本看護協会の基本理念(案)は、

①看護の質の向上 ②看護職が働き続けられる環境づくり ③看護領域の開発・展開 の3つを揚げています。

秋田県看護協会としては日本看護協会の基本理念を参考に定めていきたいと考えています。

この制度改革について会員の皆様の質問またはご要望をお聞きしたいと思いますので 13ページの「なんでもメッセージ」でご意見をどしどしお寄せ下さい。

### 地区活動報告

### 大館 地区支部



大館地区支部長 菅原 留美子

#### 「看護の日」ふれあい看護体験実施報告

7月22日(水) 大館市立総合病院において、市内の 高校1年生を対象に今年も「ふれあい看護体験」を行っ ております。

育み、看護への理解を深め、看護の道を目指す若い世代 に支援の機会を提供しようと、毎年市内の高校生の夏 休みに行っているものです。

初日、白衣に着替えた高校生たちは、午前中から早

「ふれあい看護体験」は、「看護の心、助け合いの心」を



速、オリエンテーションを行い、看護部長の講話に耳を 傾けたほか、各外来を見学しました。

また、午後からは病棟に入ってもらい、足浴介助を体 験していただきました。高校生たちは、患者さんと直に 接する良い機会になったのではないかと思います。今 年度に入ったばかりの新人看護師の講話は高校生たち には興味深いものであったようです。

体験を終えた高校生たちは、アンケートに「緊張し た」、「ユニフォームを着ることが出来て嬉しかった」、 「患者さんの笑顔を見られて良かった」、「"ありがとう" が聞けてよかった」、「患者さんの気持ちを考えて気配 りするのは簡単ではないと思った」という気持ちを 綴っていたところですが、研修を終えた数日後には、 「看護体験できたこと」への感謝の気持ちを語る手紙も 頂戴いたしました。

嬉しいことに、「今後の進路について看護の道を目指 したい という手紙もあり、「ふれあい看護体験」の意義 と達成感を感じております。

「ふれあい看護体験」は、若い方々が今後の進路を決 める上でのきっかけにもなりえているようです。

高齢化が加速し、看護の担い手も不足してきており、 看護を取り巻く環境も厳しくなってきておりますが、 「ふれあい看護体験」を今後も継続することで、「看護の 道」へ進む方が増えてもらえれば幸いです。

#### 大仙•仙北 地区支部



大仙·仙北地区支部長 大山 京子

#### 「まちの保健室・一日看護学生」を 見直して

#### 「まちの保健室」

もっと地域に入ってみようか?

メタボだけが問題ではないよね! まちの保健室を2回も やっているのに!

このままの活動で良いのかなぁと、ちらほら意見が出ていました。 そんな時、仙北組合総合病院 褥瘡対策チームより「まちの保 健室に参加させて欲しい」と当支部に申し入れがありました。 ビックリとそつかぁ在宅ケアだ・・と気づかされ、これまでのモ ヤモヤ感から期待感に変わりました。

褥瘡予防・スキンケアと適切なマットレス使用・全身管理・老々 介護・日常生活・・・等など、在宅療養(家族も含め)が大変で現状 把握と再発予防に繋がる指導をしたいと言う趣旨でした。 これまでのメタボ検診・生活指導に、更に褥瘡予防に繋がる在 宅ケアをプラスしました。初回であった今年度は、情報、計画、 内容とも浅かったが、次年度からは、①現状を把握し、もっと、 もっと工夫した在宅ケアの問題解決(具体的なケア・マットレ ス・介護保険)の情報提供と、②家族の抱えているストレス等の 聞き役などに積極的に関わって行きたいと考えています。

そのためには、①訪問看護STからの参加で現状把握の一助に なることも気づきました。看護協会の組織は大きいので、支部 役員のみではなく、会員の各専門分野の力を借りること。② 待っているまちの保健室ではなく、地域を巻き込んだ情報(広 報)活動でアピールし、地域に還元と貢献をして行きたいと考 えています。

#### 由利本荘・にかほ 地区支部

由利本荘・にかほ地区支部長 佐藤 ミツ子

TC

<sub>老人看護月間事業</sub> 市民と看護職との交流会

テーマ「在宅で高齢者の生活を支えるために」 H21年9月26日 13:30~15:30 会場:由利本荘市ボートプラザアクアパル

日頃から由利本荘・にかほ地区支部の活動につきましては、多大なるご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

事業内容として、当支部では例年は会員による施設 訪問・見学を行っていましたが、今年度は、高齢者に対 し、在宅での生活の手助けの場とするために交流会を 開催しました。このような企画は初めての試みでした が、市民の方も参加し、情報交換の場となりよい機会と なりました。講演は、長年の間看護職に携わっており、 大ベテランであり今尚現役の木内むめ氏による [私は こんな介護をした」の演題にて、十数年の間、在宅にて 認知症の夫の介護をした体験談や詩集の披露などの内 容を熱弁していただきました。訪問看護、居宅介護支援 事業所、施設看護・介護、保健・福祉行政の立場から、そ れぞれパネラー4名より市民の方にも分かりやすく事 業説明や支援内容を講演していただきました。その後、 ディスカッション・質疑応答の場とし終了しました。ア ンケートからは、講演の内容に感動しました、在宅での 介護をしていくうえでのサービス内容が分かり良かっ たです。という内容がありました。講師の木内氏から も、このような企画をこれからも続けていくようにと



の激励の言葉を頂きました。

今後の活動としても、市民の方々に企画をアピール し御理解の上、より多くの方にも参加していただける よう取り組んでいきたいと思っています。引き続き皆 様のご協力を宜しくお願いいたします。

#### 「一日看護学生」

進路の選択に悩んでいる高校生に、看護の道を広く・正しく・熱く伝えたいと考え、今年度から受け入れ対象を高校生のみにしました。内容も検討しました。①体験(学べる)したい施設を複数でも可として、急性期、慢性期と色んな医療の現場で看護を見てもらいたい②講演に介護福祉士・医師・看護師を入れチーム医療を少しでも感じてもらいたい③体験、見学も希望に添えるよう可能な限り配慮したい④「なんでも座談会」としていろいろな悩みと今日の感想等語りあいたい・・・結果、学生たちのいきいきとした眼差しと職業・進路選択の大きなヒントに繋がつたようでした。終了時、進路を看護に絞つたという声が多く聞かれ担当役員にも達成の笑顔がみられました。

地域還元・組織拡大に繋がる活動 を目指し、支部役員一同張り切っ ております。



## 環境·保健事業 功労者表彰 おめでとうございます。

Meritorious Deeds Commendation Ceremony

平成21年10月28日(水)、秋田県庁にて、 環境・保健事業功労者表彰が行われました。

## 平成21年度 環境・保健事業功労者表彰



#### 平成21年度

#### 環境•保健事業 功労者表彰

加 藤 節 子 小 浜 延 子 田 村 良 子 小 林 愛 子

工 藤 つぎ子

 佐藤潤子

 佐藤 芳子

 佐藤 明 長

 斉藤 泰子

田 邦 信

澤

高 橋 ユキ子 三 浦 美江子 永 井 章 子 小 西 美喜子 舘 花 恵 子 (順不同)

#### おらほの

#### 施設自慢 vol.27

健康増進施設まほうの学校

本荘第一病院 保健センター



健康増進事業地域の人々の

市民の健康づくりの拠点になりたいとの考えから、 医療体制の中に予防活動を組み込んだ保健センターを 設置し、病院のエネルギーの3分の1を注ぎ込んでい ます。

保健センターの主な事業は人間ドックを中心とした健康治動、運動と保健指導を中心とした健康増進活動、そして啓蒙活動です。今回は、今注目の健康増進事業である健康増進施設まほうの学校を紹介します。まほうの学校は運動型疾病予防施設として県の認可、厚生労働大臣の認定を受けています。プログラムには高血糖、高血圧、高脂血症、禁煙、心を癒すなどの8コースがあり、運動を中心に栄養、保健指導を組み込んでおります。入校希望する方は、メデカルチェック、体力測定を行いその結果を基にスポーツ医が運動処方し、健康運動指導士が運動プログラムを作成し実践します。コースは入校者が選び、週2回3ヶ月で1クールとし修了証書が手渡されます。終了時にはメデカルチェック、体

カ測定の成果を評価、その結果、終了するか、または別コース、同じコースで継続するか本人がきめます。まほうに掛かったように突然スマートになったとはいきませんが、1年間努力して10kgの減量に成功した女性もおります。入校生の皆さんには運動の動機づけ、運動量の確認、生活習慣の見直し、健康意識の変化など多くを知る事ができた、いい汗をかき楽しい2時間であったと好評を得ています。まほうの学校は生活習慣病指導料として保険適用になっており、また健康増進コースもあり健康な方でも入校できます。

この他、健康増進事業には、患者様や市民の方々と一緒に歩き運動の動機づけや親睦を図る子吉川リバーサイドウオークラリーや、にかほ市と提携し、高齢者生活機能向上を目的としたパワーリハビリ教室などがあります。これからも地域の人々の健康寿命を延ばすために努力していきたいと思います。





能代市山本郡医師会立 能代山本訪問看護ステーション

こんにちは。「能代山本訪問看護ステーション」です。 当ステーションは、平成7年に能代市山本郡医師会立と して開設され、今年で14年目になります。平成12年に 「能代山本訪問看護ステーションケアマネジメントセン ター」を、平成18年には療養通所介護「元気塾」を併設し ています。

当ステーションは、開設当初よりリハビリに力を入れ ており、病院のPT·OTとの同行訪問、定期カンファレン スでの助言や勉強会を行っていました。現在では、PTが スタッフに加わり積極的にリハビリを行っており、ニー ズも増えています。

また、難病の訪問も多く、ALSや呼吸器を装着した利 用者様には状態に応じて複数回訪問を行っており、訪問 介護と連携し介護者がレスパイトできるよう援助して います。

療養通所介護「元気塾」は、「医療ニーズと介護ニーズ」 を併せ持つ在宅の中・重度者を支える通所サービス」で あり、ご利用者様には「心身共にリラックスし、明日への 活力、生きがいがもてるような個別ケア」とご家族のレ スパイトを基本方針としております。

利用者3~4人/日と少人数であり、なじみの看護師が 常に傍にいてケアを受けられるという安心感、同病者と 気持ちを分かちあえるピアカウンセリングを生かし、利 用者・スタッフー緒に楽しむ時間を過ごしております。

これからは、更に地域の他サービスと連携、他職種と の協働を進めていき社会に浸透させ、地域に根ざした利 用者の視点に沿ったケアをしていき、ご利用者様の生活 に合わせた暮らし方を考えていきたいと思っています。

※レスパイト;介護を要する高齢者等を、一時的に預かって家族の負担を軽く する援助サービス。



#### 能代市山本郡医師会立 能代山本訪問看護ステーション

〒016-051 秋田県能代市檜山字新田沢105番地 Tel.0185-58-3892 Fax.0185-58-2891 訪問看護師:常勤3名(管理者含)、非常勤5名

理 学 療 法 士:常勤1名

介護支援専門員:専任1名、兼務6名

務 職 員:常勤1名

日:月曜日~金曜日(祝日除く)

年末年始休業 12月29日~1月3日

間:午前9時~午後5時 (24時間対応体制実施)

# なんでもメッセージ

看護協会へのご意見・ご要望、看護あきたで取り上げてほしい話題・お知らせ等々、 なんでも結構です。ご自由に記入して、FAXで送信してください。

お名前		病院•医院名	
TEL	FAX		部署•部門名

社団法人秋田県看護協会

FAX.018-835-9522



### 東洋羽毛北部販売㈱秋田営業所

0120-639601

〒010-0951

秋田県秋田市山王6丁目9-25山王SEビル5F ホームページアドレス http://www.toyoumo.co.jp



今回掲載された文章や写真、個人名・団体名については個人情報保護法の下、他の目的には一切使用いたしません。

#### 編集後記

新年おめでとうございます。新型インフルエンザの蔓延するなか厳しい冬を迎え、気の抜けない日々が続いていることと思います。 忙しいなか「看護あきた」を手に取ってくれる皆様に感謝しつつ、 新しい1年を始めたいと思います。

(広報委員 佐々木元子)

## 看護あきた vol.98

平成21年度 3号

Nursing Akita



発 行 日/平成22年1月4日 発行責任者/(社)秋田県看護協会 会長

発 行 所/(社)秋田県看護協会 秋田市千秋久保田町6-6 Tel 018-834-0172 印 刷 所/秋田中央印刷(株) 秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577